

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275400196	
法人名	社会福祉法人島田福祉の社	
事業所名	あすか	
所在地	静岡県島田市中河町326番地の1	
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区中町24-2 若杉ビル2階
訪問調査日	平成22年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活を楽しんでいただける介護の提供に努めます。1ヶ月1回は買物を行いその食材で昼食作りを行います。
誕生日外出ではご利用者自身に買物を行っていただくことで社会との関わりを保てるように努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木の温もりが感じられるゆったりとした空間で、利用者は穏やかに日々過ごされています。職員は、利用者一人ひとりの意思を尊重した支援を心掛け、誇りやプライバシーを守る努力をしています。役割担当制を導入し、2ユニットの中で職員の配置が明確になっており、申し送りが正確に行われているので確実なケアの提供が可能になり、職員も働き易い職場になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットの玄関に貼り、共有し実践につながるように努力している。	理念は玄関に掲げられ、採用時に理事長、施設長より職員に伝えられる。「思いを受け止める(共に感じ)、相手の嫌がる事は行わない。そうすれば寄り添う事が出来る(共に生きる)。」と捉え全職員で共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなどの行事や講座など、地域の方へも参加を呼びかけている。 また、ボランティアを通して地域との交流がある。	運営法人の行事、講座等へは、近隣の人に呼び掛けを行ない、参加が見られる。ボランティアとの交流も法人の地域交流ホールで行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉介護委員会などで年2回程講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回(2月・8月)に開催し、内容を供覧できるようにになっているが、そこで出された意見をサービスの向上につなげるのはまだ不十分である。	年2回家族会の開催と同時にやっている。会議の案内は家族会の会長が作成、事業所からの請求書や便りと一緒に送付している。家族会欠席者には事業所から報告している。	運営推進会議は外部からの意見を取り入れられる貴重な機会ですので、家族会とは別に開催数を増やすことを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年2回の運営推進会議に出席して頂き、実情を伝えるようにしている。	運営推進会議に市担当者の参加を得ている。法人に市町村担当者がいるので、必要時に外向き現状を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の身体状況に応じて玄関の施錠をしている。 施設内研修や日常の介護の中で知識を深めるようにしている。職員も日頃のケアの中で気をつけるようにしている	毎月研修を行い、身体拘束禁止の具体的な行為について学び、共有、理解をしている。車椅子での座ったままの状況を作らないなどの対応をしている。玄関の錠は安全を重視して施錠している。	役割担当制や利用者の行動パターンの把握等きめ細かな支援をしているので、鍵をかけずに安全に過ごせる取り組みをすることも一考です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はないが、小さなケガも早期発見出来るよう努めている。 虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、あまり理解出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する前に相談員より家族へ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の面会時に、家族の希望や要望に職員が耳を傾けるようにしている。施設内にも意見箱を設置し自由に投書できるようにしている。	面会時に問いかけたり、施設内に意見箱を設置している。介護相談員からのアドバイスも取り入れている。	多くの意見を聞こうという積極的な姿勢が見られますが、丁寧な対応に対しては家族も気が引けるので、アンケートの実施やグループホーム内に意見箱を設置する等の工夫もよいでしょう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回運営会議、代表者会議が行われ、内容は供覧ボードで全職員が確認出来るようになっている。	グループホーム会議は月1回全職員参加で行なわれる。無記名のアンケートで意見を出し、意見や提案は各事業ごとの主任・副主任・理事長が参加する代表者会議、部長・理事長参加の運営会議で検討され反映される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与前に自己評価をしている。新たに資格を取得したり、日々の業務の実績などにより昇給がある。残業時間が最小限で済むように業務の見直しや職員同士も協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回施設内研修が行われており、外部講師や職員の研修報告をしている。外部研修を受ける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会を通じ同業者と関われることがある。 毎月1回施設内研修がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談員が行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員が行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員が行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に報告や相談をし、本人の状態によっては電話で連絡をしている。また、月1回のおたよりを発行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が気軽に訪ねて来れるような雰囲気づくりに努めているが、馴染みの場所や人に会うことはあまり出来ていない。	外出は家族や知人の支援の下で行われている。知人との外出は家族に連絡、許可を得てから実施するという体制ができています。法人内の特養へ入所された方への面会支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の1人ですごく時間も大切にしながらレクリエーションなどを通して利用者同士が関わり合いを持つことも大切にしています。また、必要に応じて職員が介入し人間関係の調整をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人と関わり話をする中で本人の希望や意向を把握するようにしている。	入所前の相談員の情報から利用者の希望、意向を把握し、本人の発言を大切に家族に確認をしている。行動や表情から思いを読み取るように努め、記録に残し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族より話を聞きアセスメントシートを作成し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りを通して現状の把握に努めている。 また、職員からも話を聞くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが作成している。	法人で共通のアセスメントシートを使い、問題点は検討している。3ヶ月ごとに見直しが行われている。課題は担当職員、主任、ケアマネへと、月に2～3回に分けモニタリングが行われている。	日々の生活から得られた情報は、センター方式のアセスメント用紙で共有し活用することを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録があり、それに記録し、職員は必ず目を通し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設と併設している為、設備を活用している。(入浴・平行棒)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の訪問があり、行事の際には老人クラブや近隣の園児や児童、運営推進会議には民生委員にも参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	あすか内で、定期的に回診を受けることもできるが、本人や家族の希望があればかかりつけ医へ受診することもできる。	かかりつけ医への受診は家族が対応している。受診結果、処方された薬の内容や次回受診日等の報告を受けている。法人施設内での内科回診は3週間に1度実施され、眼科や歯科の受診もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間共に看護師へ相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や看護師、管理者が訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	嘱託医へ相談し、家人、看護師、担当者が話し合っている。	入所時に本人、家族から意向を聞き、書面に記録している。状況の変化がある時には再確認をし、対応している。看護師が毎日待機し、医師からの指示を得る体制も整っている。家族の宿泊や付き添いは自由にでき、居室で終末期を迎えられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に1回地域の方を含め、防災訓練を行っている。	法人全体で年2回実施し、火災、煙、消火器、地震、避難誘導の訓練を学んでいる。地域や自治会の人々に、利用者の様子や、建物内や構造を把握してもらい協力体制を築いている。消防署と共に訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で学んでいる。 利用者に接する際には配慮している。	外部研修の受講者は、受講内容を報告し共有している。内部研修も行われている。利用者各自の行動を理解した上で、さりげない言葉かけや誘導を実践している。入浴、排泄時は特に配慮している。居室での衣類着脱には、窓のカーテンを引く等注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話をしながら希望を聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースですごせるようにしている。レクリエーションを行っているが参加は強制しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎週施設に理容師が来ている。 毛染めをしたり、化粧水を使う方もいる。 外出の際は季節に合わせた衣類の選択が出来るように必要に応じ介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備(テーブル拭き、箸を置く、みそ汁をよそう) 片付け(食器洗い)など出来ることはやって頂いている。また、みそ汁づくり(もやしのひげとり)なども行ってもらっている。	副食は法人の委託業者が調理しているが、ご飯、味噌汁は各ユニットで作る。月2回ほどユニットで昼食作りを楽しんだり、出来る人は汁物の盛り付も自分でしている。箸や食器は各自で下膳して流しで洗い、職員と片付けをしている。寿司バイキング、麺バイキング等もあり楽しめる食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量、水分量を記録している。個々に合わせ食事量を調整している。 また、状態の変化が見られた時は栄養士に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入し、排泄パターンを把握している。	全員トイレに誘導し、トイレでの排泄を支援をしている。排泄パターン表は、名前を色分けをして状況を把握しやすく工夫し、時間を記入し活用している。検討が必要な場合には、会議で話し合う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとってもらったり、冷たい牛乳やセンナ茶を摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴回数を検討している。 曜日や時間については職員が決められている。	毎日8:45～14:00の好きな時間に檜の浴槽で入浴が出来る。希望を取り入れ、足浴も行っている。一人毎に、お湯、タオル、バスマットを交換している。脱衣室には木製椅子が置かれ、室温の調整もまめに行われている。清潔で快適な入浴を楽しむ支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人持ちの寝具を使用するなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋がはさんであり、確認出来るようになっている。服薬は職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割や楽しみな事を行ってもらい、出来る限り気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に外出を計画して出掛けている。 希望によって対応することは出来ていない。	各人の毎日の散歩は法人の敷地内で行われ、日当たりの良いテラスで外気浴もしている。花見、誕生日食事会等が、年3回外出計画により行なわれている。家族の連絡で外出する時は、職員は準備を支援し出掛けやすくしている。	職員体制を工夫され、広い法人敷地内だけでなく、外での買い物、散歩などの生活も支援をされる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは金庫で預かっている。 本人の希望があれば少ない金額のお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば手紙を書いたり、電話をかけたり出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当日のレクリエーション、献立をホワイトボードに書き出し掲示している。	目に付きやすい場所に、本日の予定がホワイトボードに書かれている。共有スペースには、作品や写真が展示されている。作品は写真で残し、定期的に交換している。新しい空気清浄器が設置され、除菌や脱臭への配慮をしている。和造りの部屋の窓から、庭の梅、桜、さつき等が眺められ季節を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の席が近くなるようにしている。 居間があるが活用されていない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や好きな物を置き居心地良く過ごせるようにしている。	家具や洋服ラック、アルバム、位牌、冷蔵庫等の持ち込みが可能である。新聞を購読している人もいる。家族と相談しながら、ベット、和式布団、マットレス、床にゴザを敷く、押入れの入れ替え等、快適な居住間になる様本人の希望を取り入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の関わりの中で、出来る事を見つけ出し、提供できるように努めている。		